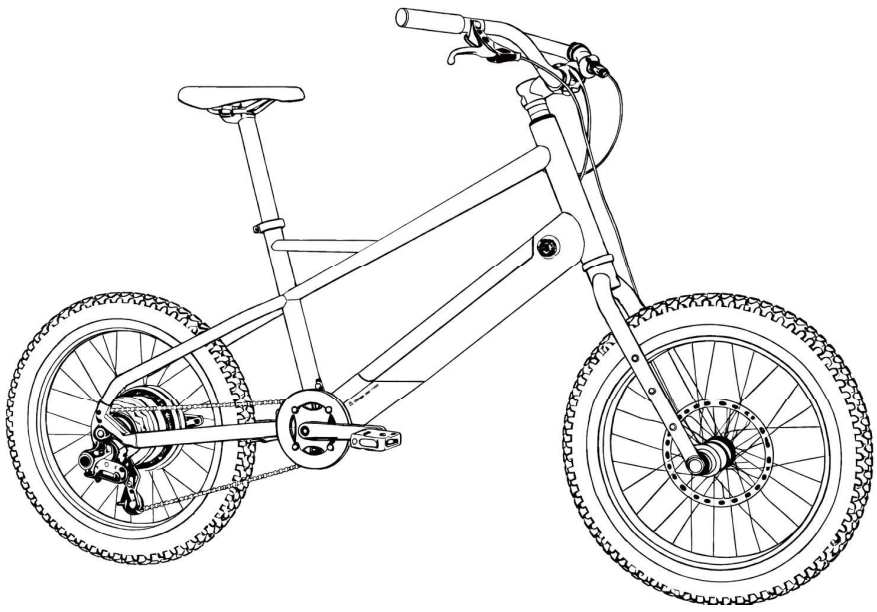
CROSS SECTION

eEDIT MINI

MANUAL
取扱説明書



※仕様変更等により、内容やイラストが一部実車と異なる場合があります。

はじめに

このたびは、CROSS SECTION電動アシスト自転車をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。本製品をお使いいただく前に、必ず、この取扱説明書をお読みいただき、正しくお使いください。お読みになった後は、いつでも取り出せるところに保証書とともに大切に保管してください。

この電動アシスト自転車は運転免許証は不要ですが、普通の自転車とは異なる部分があります。安全、快適にお乗りいただくため、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みになり、本製品をご理解の上、ご使用ください。
この取扱説明書は紛失しないよう大切に保管してください。電動自転車を他人に譲る場合は、次のお客さまのためにこの取扱説明書もお渡しください。

・この電動アシスト自転車は一般乗車用として設計されております。
・安全走行のためにヘルメットを着用していただいてのご使用をお願い致します。
・販売店から充分に使用方法の説明を受けていただくようお願い致します。
・保証書は販売店名、お買い上げ日などが記載されていることを確認してから販売店からお受け取りください。記入漏れがある場合は販売店にご要望いただくようお願い致します。
・本書と保証書は大切に保管してください。

取扱説明書について

・この取扱説明書は、予告なしに変更する事があります
・予告なく仕様または外観等の一部を変更する事があります。
・この取扱説明書に関して万一ご不明な部分や記載漏れ、誤り等お気付きでしたら当社までご連絡ください。

免責事項

・取扱説明書に記載されている使い方以外で生じた損害、破損に関して当社は一切責任を負いません。
・地震、火災、第三者による行為、事故、お客様の故意、過失または誤用、異常な条件下でのご使用による損害、破損に関して当社は一切責任を負いません。
・接続機器との組み合わせによる誤作動等で生じた損害、破損に関して当社は一切責任を負いません。
・本製品は、人命に係わる機器や高度な信頼性を求められる機器でのご使用を目的として開発しておりません。これらの機器に本製品を使用しないでください。本製品の故障により火災、人身事故等が発生した場合当社は一切責任を負いません。
・保証書に記載されている保証がすべてであり、この保証のほかは、黙示の保証、明示の保証を含めて一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。

安全上のご注意

安全にご使用いただくために必ずお守りください。

⚠ 危険	誤った取扱をすると人が死亡または重症を負うことがあり、かつ、その度合いが高いことを示します。
⚠ 警告	誤った取扱をすると人が死亡または重症を負うことがあることを示します。
⚠ 注意	誤った取扱をすると人が傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性があることを示します。

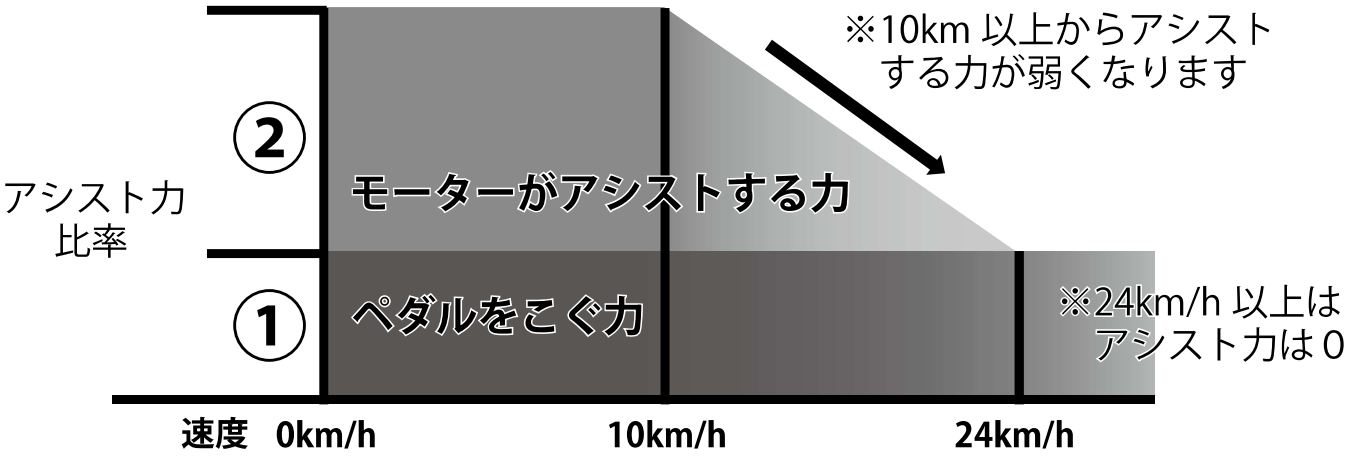
※重症とは、失明やけが、やけど、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、および治療に入院や長期の通院を要するものを示します。
※傷害とは、治療に入院や長期の通院を要さない、けが、やけど、感電などを示します。
※物的損害とは、家屋、家財、建物および家畜やペットにかかわる拡大損害を示します。

はじめに

CROSS SECTION電動アシスト自転車の特徴

お買い求めいただいた自転車は、電動補助（アシスト）システムが付いた自転車です。
電動アシスト自転車は普通の自転車とは異なった部分があります。この取扱説明書をよくお読みいただき正しく、安全、快適にお乗りください。

アシスト自転車の法令基準についての説明図
本製品のアシスト比の説明図ではありません。



電動アシストとは

人がペダルを踏む力に応じて、モーターが補助的な力を加え、自転車の走行を助けてくれるシステムです。
ただし、次のようなときは電動アシストが働きません。

- ●メインスイッチの電源が切れているときや、アシストOFFにしているとき
- ●速度が24km/h以上のとき
  速度が24km/h以下でも平地などのペダルの負荷が少ない道路では電動アシストが動かない場合があります。
- ●ペダルの回転を止めているとき
- ●バッテリー残量がなくなったとき
- ●自動電源OFF機能が作動したとき
- ●走行不能になる故障や異常が発生したとき
  電動アシスト機能が上記理由などで動かない場合でも、通常の自転車として走行することが可能です。
  ただし、前照灯は点灯しませんので、トンネル内などの暗い場所や夜間には乗車せず、自転車を押して移動してください。

自動電源OFF機能について

電源が入っている状態でも約10分間ペダルに負荷がかからない状態になると、バッテリーの消費を軽減する為に自動的に電源はOFFになります。その場合は再度電源ボタンを押していただいてから走行してください。

安全上のご注意

走行前の安全確認

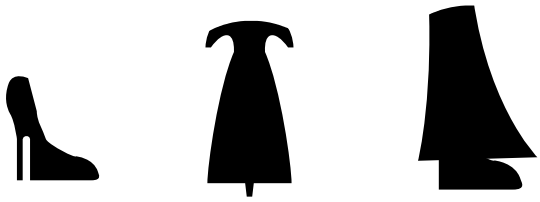
⚠ 警　告

乗車前点検を必ず実施する

取扱説明書をよくお読みいただき、乗車前点検を必ず使用毎に実施してください。点検時に異常が見つかった場合は使用をせずに、すぐに販売店で点検を受けてください。異常のままで使用すると、転倒や衝突の事故につながりけがをする恐れがあります。分からない事柄があった場合は販売店にご相談ください。

安全な服装で乗車してください

長いスカートや長いすそのズボン、長いマフラー、滑りやすい靴やかかとの高い靴などを着用しての乗車は危険ですので避けてください。車輪、ギア、チェーンに巻き込んだり、ペダルから足が滑り転倒する恐れがあります。



電動アシスト自転車の運転に慣れるまで充分に練習する

運転に慣れるまでは、車が通らない平坦な場所（自転車が乗り入れ可能な公園や広場など）で、周囲の安全を確認してから充分に練習をしてください。運転に慣れる前に道路で乗車すると、電動アシスト自転車の特性に慣れずに転倒や衝突の事故につながりけがをする恐れがあります。

お客様自身で改造や分解はしない

部品が損傷したりブレーキが効かなくなるなどの故障の原因となり、転倒や衝突の事故につながりけがをする恐れがあります。
修理や部品の取付は販売店にご相談ください。
また、補助輪は取付しないでください。

サドルの引き上げ限界線が見える状態で乗車しない

サドルポストの折れや破損、抜ける原因となりますので限界線以下である事を確認してから乗車してください。転倒や衝突の事故につながりけがをする恐れがあります。



荷物を手やハンドルにかけてたり、ペットをつないで乗らない

荷物やリードが車輪、チェーン、ギアなどに巻き込まれたり、バランスを崩して転倒し、けがをする恐れがあります。

風邪薬服用時や体調が優れないとき及び飲酒時には乗らない

転倒や衝突の事故につながりけがをする恐れがあります。

異常があるときには乗らない

異常があるまま走行すると事故や転倒によりけがをする恐れがあります。異常を発見したら使用を中止し、販売店にご相談ください。変形したりひび割れたりした部品は必ず交換してからご使用ください。

下り坂や雨の日、濡れた路面、鉄板の上などではスピードを出しすぎない

スリップしたりブレーキ性能の低下により制動距離が長くなり、転倒し、ケガをするおそれがあります。

2人以上で乗らない、ハブステップなどの突起物を装着しない

転倒や事故によるケガのおそれがあります。

安全上のご注意

走行中の転倒や衝突事故を防ぐために

⚠ 警　告

傘やステッキ、釣りざおなどを下げたり、差し込んだりして乗らない。また、スポークの間にボールなどを挟まない
車輪がロックして転倒するおそれがあります。

組み立て前の自転車や未調整の自転車に乗らない
転倒や衝突によるケガのおそれがあります。

前ブレーキだけのブレーキ操作はしない
転倒や衝突によるケガのおそれがあります。

スピードを出し過ぎたまま、急ハンドル操作をしたり、急カーブを曲がったりしない
スリップや転倒によるケガのおそれがあります。

乱暴に運転したり、アクロバット的な乗り方をしない
フレームや車輪が損傷して、転倒や事故によるケガのおそれがあります。

乗車前は、前後ブレーキ動作、ハンドル・車輪の固定、タイヤの空気圧などを点検する
ブレーキ動作の異常や各部のゆるみがあると、転倒によるケガのおそれがあります。また、タイヤの空気圧が適正でないと、パンクしたり、リムが破損して、転倒し、ケガをするおそれがあります。

滑りやすいところ（積雪、凍結した道、鉄板の上やぬかるみなど）では乗らない。また、風の強いときも乗らない
前輪や後輪がスリップして転倒し、ケガをするおそれがあります。この場合は、自転車から降りて、押して歩いてください。

車輪の着脱後や、サドルとハンドルの調整後は、締め付けを確認してから乗る
車輪やサドル、ハンドルが外れて転倒し、ケガをするおそれがあります。調整後は、必ず、乗る前に確認してください。

乗車するときは、自転車用ヘルメットを着用する
ヘルメットは頭部の保護のために非常に有効です。乗車時は自転車用ヘルメットを装着して走行してください。

カーブを走行するときには、曲がる側のペダルを下げない
ペダルが地面と接触し、転倒によるケガのおそれがあります。

自動車の横を走行するときは安全を確認する
駐車や停車中の車が急にドアを開けたり、車の陰から人や動物が出てきたりすることがあり、事故のおそれがあります。

夜間・トンネル内・霧発生時など視界が悪いときは、無灯火で乗らない
見通しが悪くなり、衝突や転倒によるケガのおそれがあります。また、第三者から見えにくくなり危険です。LEDライトがつかないときやリアリフレクターが破損したり、汚れていたりする場合は、押して歩いてください。また、LEDライトはバッテリーを電源としておりますので、バッテリー残量がなくなりアシストしなくなった状態になるとLEDライトも消灯します。夜間走行中にバッテリー残量がなくなった場合は乗車を中止して押して歩いてください。

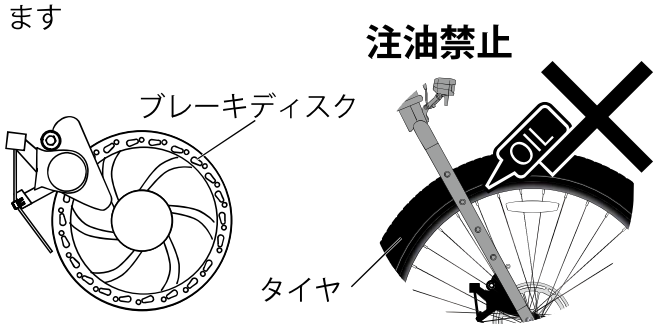
安全上のご注意

使用中のけがを防ぐために

⚠ 警　告

ブレーキディスク、タイヤには絶対に注油しない

ブレーキが効かなくなり衝突によるケガのおそれがあります



乗車前は、前後ブレーキ動作、ハンドル・車輪の固定、タイヤの空気圧などを点検する

ブレーキ動作の異常や各部のゆるみがあると、転倒によるケガのおそれがあります。また、タイヤの空気圧が適正でないと、パンクしたり、リムが破損して、転倒し、ケガをするおそれがあります。

バッテリーを本体から外すときや持ち運びをするときは、取っ手を持つ

落ちて足などにケガをするおそれがあります。

走行中に異音が発生したり、自転車が転倒し、水に浸かったりするなどの異常が発生した場合は、ただちに使用を中止し、お買い上げの販売店に相談する

そのまま使用を続けると事故や故障の原因になります。

水洗いはしない

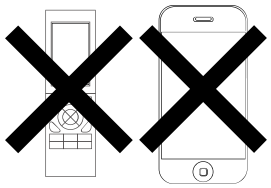
浸水によって電気部品および配線の絶縁が劣化し、漏電など故障の原因になります。

停車しているときは、ペダルには足を乗せず前後輪ブレーキをかける

ペダルに足を乗せるとアシストが作動することがあります。停車しているときは、必ず、前後輪ブレーキをかけ、ペダルに足を乗せないようにしてください。

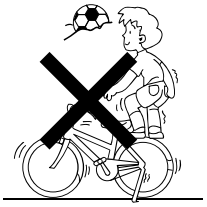
走行中はスマートフォンや携帯電話、音楽プレーヤーを使用しない

注意力が散漫になり、転倒や衝突の危険性が高まります。走行中は絶対に操作や画面を見ないようにしてください。



自転車を走行以外の目的（腰かけや踏み台の代わりなど）に使用しない

自転車が故障したり、バランスを崩し、転倒によるケガのおそれがあります。



使用を開始してから2カ月以内に必ず点検をおこなう

必ず、取扱説明書をよく読んでから点検してください。わからないときは、自転車販売店にご相談ください。

1年ごとに以下の点検・交換をおこなう

ブレーキが効かなくなったり、スリップしやすくなったりして転倒のおそれがあります。

●ブレーキワイヤー
　異常がなくても2年に1回は、交換してください。

●ブレーキレバー
　遊びが大きいときは、すぐに調節をしてください。

●チェーン
　たるみが大きいときはすぐに調節をしてください。走行時にチェーンが外れるおそれがあり危険です。

●タイヤ
　接地面（トレッド）の溝がなくなる前に交換してください。

●ブレーキパッド
　溝の残りが１mmになる前に、お買い上げいただいた販売店または自転車販売店で交換してください。

安全上のご注意

⚠ 警　告

電動アシスト自転車の発進特性に慣れるまでは、車道や人通りの多い道で乗らない

電動アシスト自転車は普通の自転車より軽いペダル踏力で発進できますが、慣れないうちに普通の自転車と同じ感覚でペダルを強く踏み込むと普通の自転車以上に加速するため、驚いて転倒したり、衝突したりするおそれがあります。慣れるまでは安全な場所で練習しましょう。また、無理な走行（スピードの出しすぎ、急坂の走行）をしないでください。年齢や体力に合わせた走行をしましょう。

傾斜や段差のある道路では、無理な走行はしない

乗り方によってはハンドルをとられたり、ふらついて転倒するおそれがあります。また、極端に道幅の狭い道路やガードレールなどがなく転落の危険性がある道路では、絶対に使用しないでください。転倒や事故によるケガのおそれがあります。

急ハンドル、急ブレーキはしない

スリップして転倒によるけがのおそれがあります。

チャイルドシートを使用しても2人乗りをすることはできません

この自転車は別売のチャイルドシートを取り付けして使用できる設計にはしておりません。無理やり取り付けると転倒、破損の恐れがあり大変危険です。チャイルドシートは絶対に取付しないでください。

純正部品を使用する

純正部品以外の使用は故障や事故の原因となることがあります。

走行中はスピードの出しすぎや急な小回りはしない

安全が確保できる程度で走行し、下り坂や曲り角の走行時は早めのブレーキで減速してください。転倒や事故によるケガのおそれがあります。

自転車の停止や駐車は必ず平坦な場所に止め、自転車が容易に動かないことを確認する

倒れる事による打撲、それに伴う破損や故障により思わぬケガの原因になります。

片側だけのブレーキ操作はしない

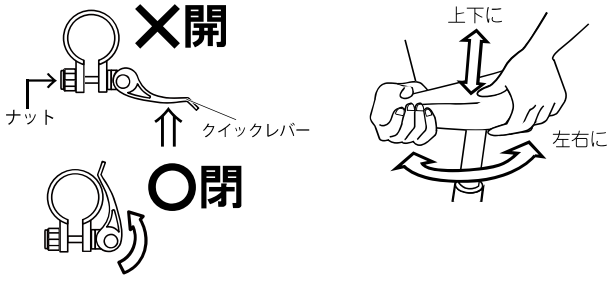
スリップして転倒によるけがのおそれがあります。
※ブレーキは必ず前後ともかけるようにしてください。

完全に止まってから降りる

完全に停車する前に飛び降りたりするなどの行為はバランスを崩して転倒しけがをするおそれがあります。

サドルの固定を確実にされていることを確認する

乗車前にクイックレバーが固定されている事をご確認ください。クイックレバーはしっかりとフレーム側に倒してください。サドルが動く場合はクイックレバーを開いた状態で反対側のナットを回してクイックレバーの強度を調節してから再度クイックレバーを固定してください。サドルが確実に固定されていないと、安定した走行に支障をきたすことに加え、シートポストが破損したり脱落したりして、けがをするおそれがあります。



※閉めてもサドルが動く又は硬すぎて閉められない場合は開いてからナットで強度を調節

安全上のご注意

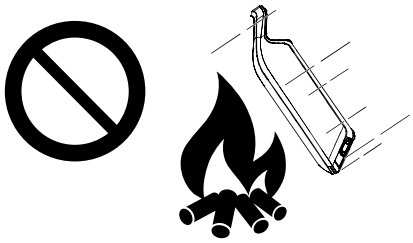
バッテリーの取り扱いについて

●バッテリーの取り扱い中に感電や火災を防ぐために下記事項をよくお読みください。

⚠ 警　告

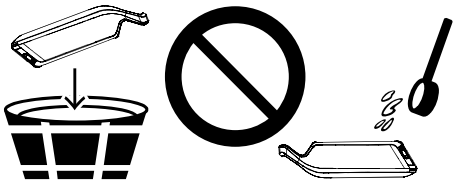
バッテリーを火中に入れたり、加熱しない

発熱,発火,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。



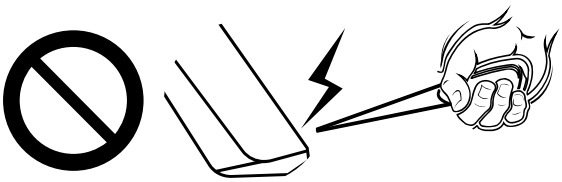
バッテリーに水をかける、水に入れるなどはしない

発熱,発火,感電,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。



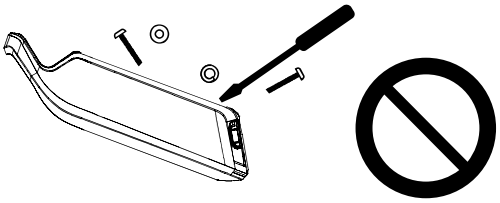
バッテリーの端子間、接点を金属などで接触させてショートさせない

発熱、発火、感電の原因となります。



バッテリーの改造、分解はしない

発熱,発火,感電,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。



専用充電器以外は使用しない

発熱,発火,感電,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。

バッテリーを落としたり投げたりして、衝撃を与えない

発熱,発火,感電,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。

バッテリーを他の電気機器に使用したり、他の用途に使用しない

他の電気機器に使用すると、故障の原因となります。

バッテリーケース、端子に破損や傷つきがあるとき、また異臭や液漏れ、ふくれがあるバッテリーは使用しない

発熱,発火,感電,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。

※異常を感じた場合は、すぐに販売店にご相談ください。

バッテリーを締め切った倉庫や車の中など、高温になる場所に放置したり、保管しない

発熱,発火,感電,液漏れ,破裂,破損故障の原因となります。

安全上のご注意

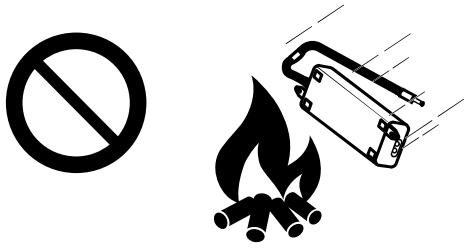
充電器の取り扱いについて

●充電器の取り扱い中に感電や火災を防ぐために下記事項をよくお読みください。

⚠ 警　告

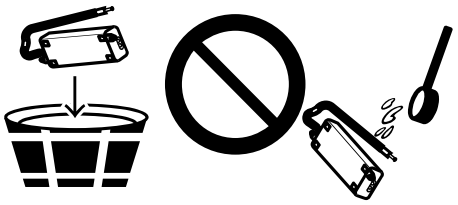
充電器を火中に入れたり、加熱しない

発熱,発火,火災の原因となります。



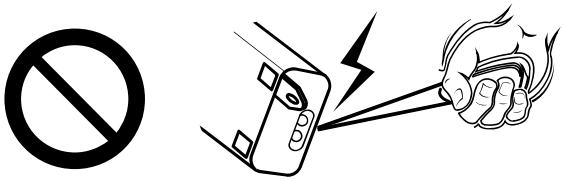
充電器に水をかける、水に入れるなどはしない

発熱,発火,感電,火災の原因となります。



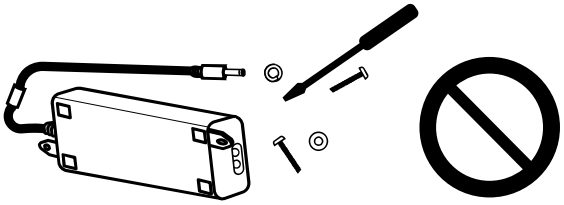
充電器の端子間、接点を金属などで接触させてショートさせない

発熱、発火、感電,火災の原因となります。



充電器の改造、分解はしない

発熱,発火,感電,火災の原因となります。。



充電器を落としたり投げたりして、衝撃を与えない

発熱,発火,感電の原因となります。

充電器本体、端子、コードなどに破損や傷つきがあるときは使用しない

発熱,発火,感電,火災の原因となります。

※異常を感じた場合は、すぐに販売店にご相談ください。

充電器を他の電気機器に使用したり、他の用途に使用しない

他の電気機器に使用すると、故障の原因となります。

電源プラグは確実に根元まで差し込む

発熱,発火,感電,火災の原因となります。

濡れた手で充電端子に触れたり、電源プラグを取り扱ったりしない

感電,火災の原因となります。

コードの上に物を乗せる、家具などの下にはさむなどした状態で使用しない

発熱,発火,感電,火災の原因となります。

コードを傷つけたり、加工、切断、ひっぱる、ねじる、たばねるなどしない

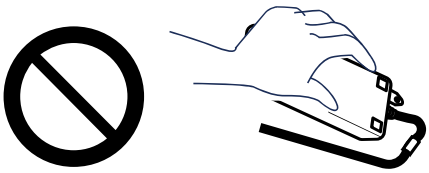
コードが破損し発熱,発火,感電,火災の原因となります。

安全上のご注意

⚠ 警　告

充電中は皮膚を長時間充電器及び充電中のバッテリーの同じ場所に触れない

ケースの温度が４０℃～６０℃になる場合があり、低温やけどのおそれがあります。



充電しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

絶縁老化などによる感電や漏電により火災の原因となります。

電源プラグのほこりなどは定期的に取る

発熱,発火,感電,火災の原因となります。

専用バッテリーの充電以外は使用しない

発熱,発火,感電,火災の原因となります。

ガソリンや灯油などの引火物や引火性ガスの近くでは充電しない

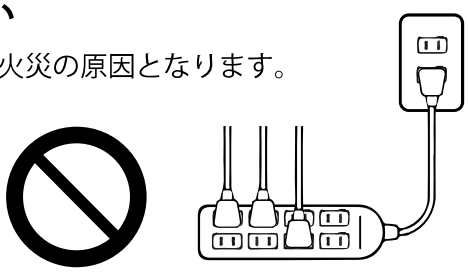
爆発,火災などの原因となります。

充電器やバッテリーを幼児や子供の手の届く場所に置かない

落下してけがをするおそれがあります。また、故障の原因となります。

配線器具、コンセントの定格を超える使い方や、家庭用コンセント（ＡＣ１００Ｖ）以外で使用しない

発熱,発火,感電,火災の原因となります。



幼児やペットが触れる場所に放置しない

感電,火災,故障の原因となります。

電源プラグを抜くときは、コードを持たずに、必ず先端のプラグを持って抜く

感電,ショートの原因となります。

充電中、充電器やバッテリー、コードにカバーをしたり、燃えやすいものを周囲に置かない

内部が発熱し、発熱,発火,感電,火災の原因となります。

コードが損傷している場合は使用しない

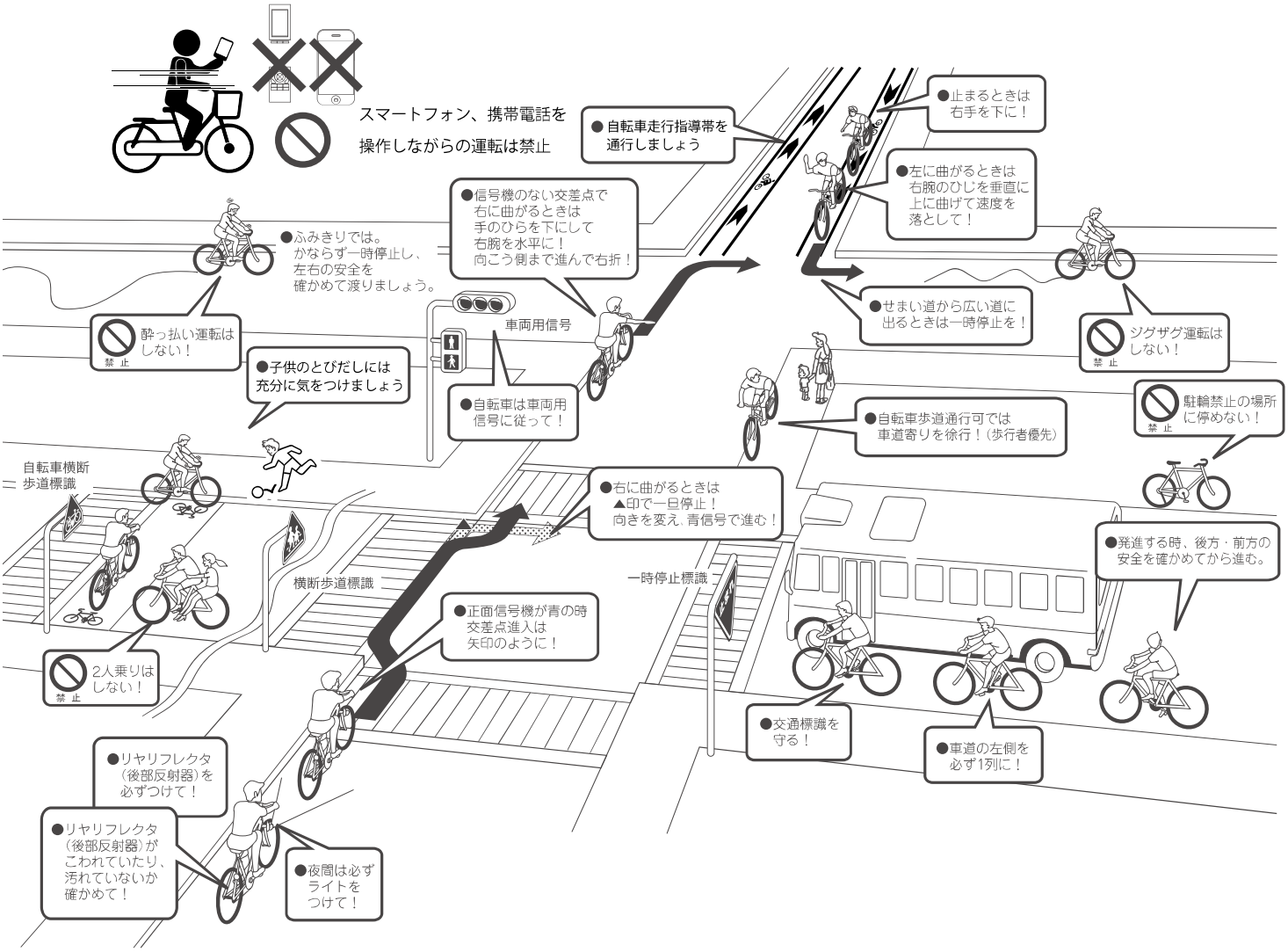
発熱,発火,感電,火災の原因となります。

安全上のご注意

交通ルールを守って安全走行

⚠ 警　告

安全に、そして快適に乗るためには交通ルールの厳守が重要です。交通ルールを守って安全運転を心がけましょう。交通ルールを守らなければ、事故、衝突、転倒などによるけがのおそれがあります。
法律により、飲酒運転、片手運転、無灯火運転、２人乗り、並進、車道の右側通行、スマートフォンや携帯電話を使用しながらの運転などは禁止されております。法令を遵守した走行をしましょう。違反すると、道路交通法の罰則を受けることがあります。



●自転車は車道の左側通行が原則です。

●周囲の安全を確認してから、道路の左側から発信します。
**　右手を地面と平行に真横へだして、後方から来る車にスタートの合図を示します。**

●自転車走行指導帯を走行しましょう。

安全上のご注意

①信号機のある交差点をわたるときは

しっかりと信号を守り、注意しながら横断しましょう。
正面の信号が青の時は直進と左折ができます。
右折するときは、２段階右折をしてください。正面の信号が青になったらいったん向こう側までわたりきってから止まります。次に右側の信号が青になったら進みます。

②信号機のない交差点をわたるときは

信号機のない交差点では、充分に周囲の安全を確認してから進みます。
止まるとき、曲がるときは合図をしましょう。右折、左折共に３０mほど手前から合図をだしましょう。

- ●右折の合図は、右手を地面と平行に真横へだします。
- ●左折の合図は、右手を地面と平行に真横へだし、ひじを直角に上へ曲げます。
- ●停止の合図は右手を斜め下にだします。



③歩道は歩行者優先

『自転車および歩行者専用』の標識、表示があるところでは、歩道を通行することが可能ですが、通行できる部分が指定されている場合は指定された部分を、指定されていない場合は歩道中央から車道よりの部分を徐行しながら通行しましょう。歩行者の通行を妨げるおそれがある場合は、一時停止して歩行者を優先しましょう。



自転車および歩行者専用標識



普通自転車の歩道通行部分

④踏切では

遮断機が下がっている、または踏切音が鳴っている場合は、踏切の手前で停車して、自転車の左側に降りてください。
遮断機が上がっている場合でも踏切の手前でいったん停止し、左右の安全を確認してから注意してわたってください。

⑤自転車横断帯がある場所では

自転車横断帯があるところを通行しなければなりません。



横断歩道
自転車横断帯標識



自転車横断帯標識



自転車横断帯

安全上のご注意

⑥駐停車している自動車の横を通過するときは慎重に

自動車が駐停車中、または渋滞や信号待ちで止まっているときには、急にドアが開く可能性があります。それらの横を通過するときは、あらかじめスピードを落としてから慎重に通過するようにしましょう。

⑦交差点での巻き込みに注意しましょう

交差点は一番事故が起こりやすい場所です。とくに大型車の左折による巻き込み事故には充分に気をつけましょう。また、自分が左折する場合でも、周囲の安全を確かめてから曲がるようにしましょう。

⑧子供の飛び出しには充分に注意しましょう

近くに学校や公園があるような道路では、とくに子供の飛び出しに気をつけて走行しましょう。

⑨スピードのだしすぎ、急ブレーキは大変危険です

●下り坂やぬれた路面、雨の日などは、すべりやすいのでブレーキ操作に充分に気をつけましょう。
●ブレーキがぬれているときは制動距離が長くなりますので、スピードをひかえて運転してください。
●交差点やカーブなどではスピードを充分に落とし、ゆとりを持ったブレーキ操作で安全運転に心がけましょう。
●ブレーキをかけるときは、必ず前後ともにかけるようにしましょう。前後どちらかだけのブレーキ操作は横滑りや転倒の原因となり、大変危険です。
●長い下り坂でブレーキをかけっぱなしにすると、ブレーキが過熱して効かなくなってしまう可能性があります。前後ブレーキを小刻みにかけるようにしましょう。制動力の低下を感じたら、走行を中止し、自転車販売店にご相談ください。

⑩『止まれ』の標識がある場所では

『止まれ』の標識の手前でいったん停車し、周囲の安全を確認してから再度走り出しましょう。



⑪横断歩道をわたるときは一時停止すること

横断歩道の手前でいったん停車し、左右の安全を充分に確認してから進みましょう。

安全上のご注意

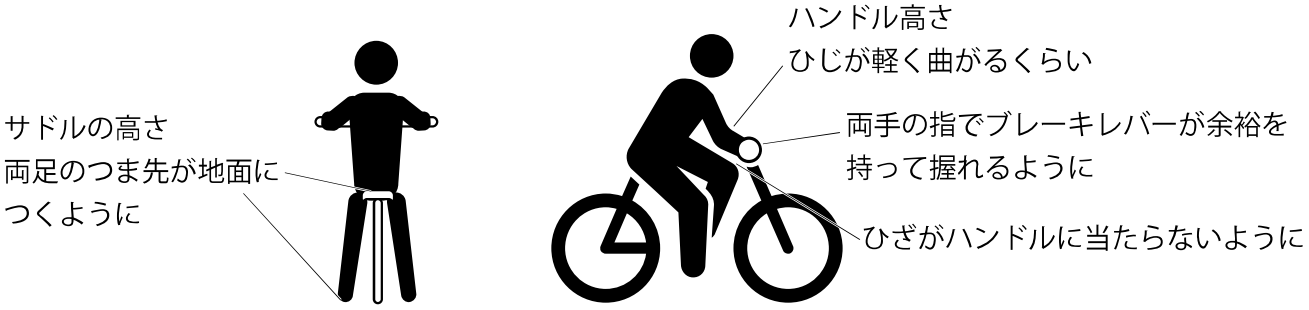
乗車前の調整

正しい運転姿勢になるように、サドルの高さとハンドル高さ、ブレーキレバーの位置を調整してください。
サドル高さはお客様で調整することができます。
ハンドル高さとブレーキレバーの位置調整は工具が必要ですので、調整が必要な場合は自転車販売店にご相談ください。

正しい運転姿勢

サドルに腰かけて、両手をハンドルグリップにかるくかけた状態で、以下のようにしましょう。

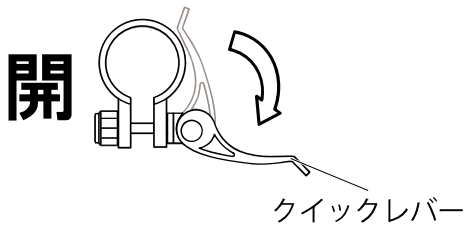
●ひじは軽く曲がる
●両足のつま先が確実に地面につく
●ひざがハンドルに当たらない
●両手の指でブレーキレバーが余裕をもって握ることができる



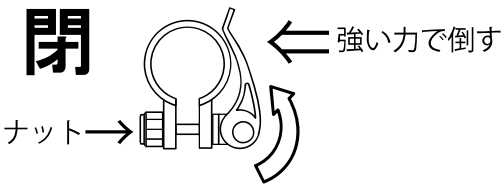
サドルの高さ調整方法

両足のつま先が地面に確実につくようにサドルの高さを調整しましょう。

調整方法
①クイックレバーを後方に倒して開きます。（サドルの固定が解除されます）



②サドルの高さと向きを調整した後に、クイックレバーを前方に倒して固定します。
※この時クイックレバーがフレーム側に向かって倒れるようにしてください。サドルの固定力を高めるために、強い力で完全にフレーム側に収まるようにしてください。固定力が弱いまたは強すぎる場合は、反対側のナットを調節してください。



⚠ 警告

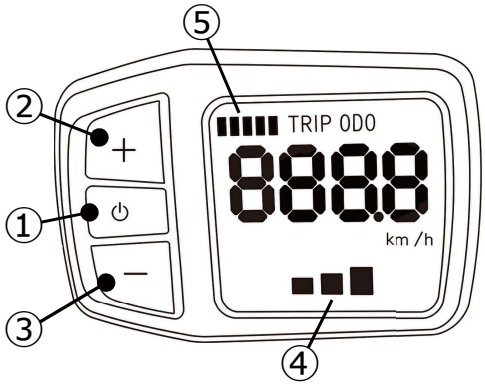
●シートポストの引き上げ限界線が見えるまでは引き上げないでください。
●調整後はガタやズレがないか確認してください。
●サドルが上下左右に簡単に動かない事を確認してから乗車してください。
●車両を持ち上げる場合は、サドルを持たないでください。


引き上げ限界線

操作について

Control Display

コントロールディスプレイ



⏻ ①電源ON/OFF ボタン

コントロールディスプレイの左中央の ⏻ ボタンを3秒長押しする（電源オン / 電源オフ）
※自動電源OFF：10分間モーターの起動もしくはコントロールディスプレイの入力が無い
場合は自動的に電源がOFFとなります。

⏻ ボタンを押すごとに
走行スピード → TRIP（区間走行距離） → ODO（総走行距離）
の順で繰り返し表示されます。

「+」「−」 ②③アシストモード変更ボタン

コントロールディスプレイ左側の「＋」と「-」ボタンでアシストモードを変更します。

④アシストモード

4つのモードから選択できます。
0：アシスト無し
1：ECO（アシスト弱）
2：NORMAL（アシスト中）
3：BOOST（アシスト強）

※電源をONにした際は、モードは常に2:NORMALになります。

⑤バッテリー残量

バッテリーの残量は5段階で表示されます。

操作方法

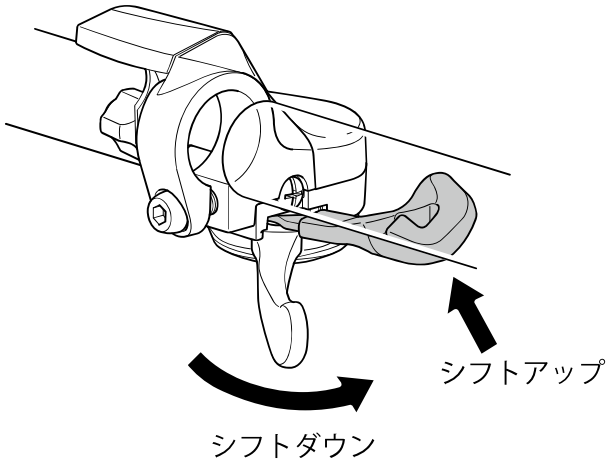
電源のON/OFF　：コントロールディスプレイ左側 ⏻ ボタンを3秒長押しする。

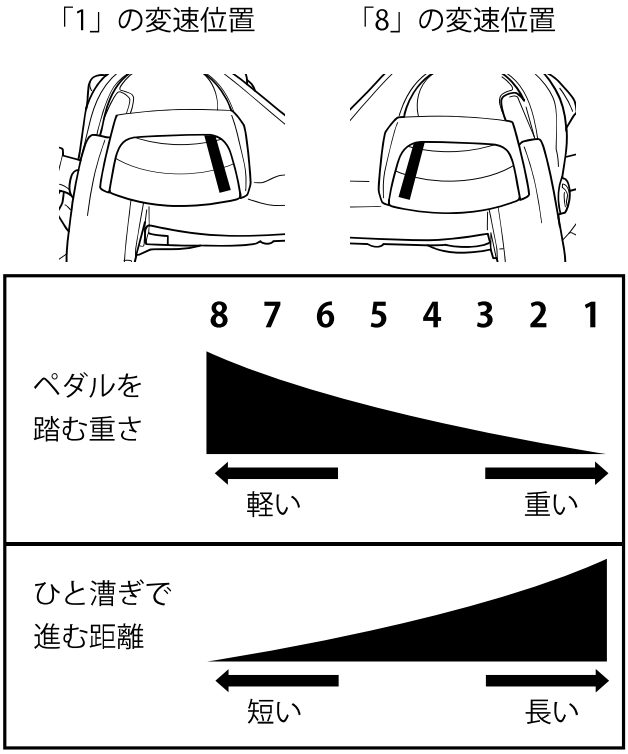
アシストモード変更　：コントロールディスプレイ左側「＋」と「-」ボタンを押して変更する。

操作について

変速機

ハンドルの右側グリップ下部に変速レバーを装備しています。変速レバーを操作するときは、ペダルの踏み込みをしながら操作してください。
※停車中に変速レバーを操作しても変速はしません。また、変速機の故障の原因となりますので注意してください。





⚠ 注意

●停車中、またはペダルを踏みこんでいないときには変速レバーを操作しないでください。
無理に変速レバーを動かすと変速機が故障します。
●変速操作に慣れるまで充分に練習をしてください。
●上り坂を走行する場合は、坂の手前までに変速をしておいてください。

スタンド

スタンドは自転車後方左側に装備されています。
走行中はスタンドを地面とほぼ垂直になるまで上げてから走行してください。

⚠ 注意

●スタンドは無理に動かしたり曲げないようにしてください。
●スタンドを立てた状態で乗ったり、大きな負荷を本体にかけないようにしてください。
スタンド破損の原因となります。

バッテリーを充電しましょう

バッテリーの説明

当製品は専用のリチウムイオンバッテリーを装備しております。
リチウムイオンバッテリーは軽量かつ電池容量に優れたバッテリーですが、以下の特性もあります。

・過度に暑い環境や寒い環境で性能が低下します。
・使用していないときでも放電をします。
・満充電のバッテリーを繰り返し充電すると劣化が早くなります。

⚠ 注意

●バッテリーの温度上がるとバッテリーの温度が上昇すると、システム保護制御が作動し、アシスト力が低下することがあります。

●バッテリーの温度が下がるとバッテリーの温度が下がると、一充電当たりの走行距離が短くなったりアシスト力が低下する場合があります。

※これらはリチウムイオンバッテリーの特性であり、故障ではありません。15 ～ 25℃の室内で保管してからご使用いただければ症状を軽減できます。

e-EDITmini に使用しているバッテリー
36V　7Ah　　リチウムイオンバッテリー

充電に適した環境

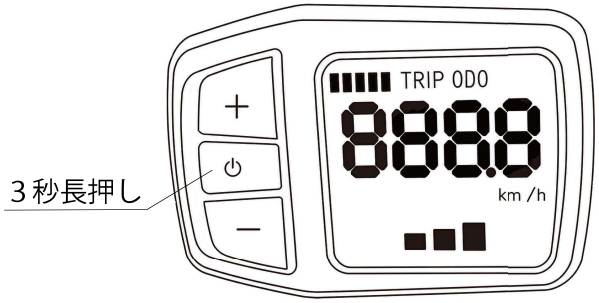
過度に寒い場所や暑い場所では正しく充電できない場合があります。以下のように充電に適した環境で充電するように心がけてください。

・温度が15 ～ 25℃の室内
・雨や水にぬれない場所
・湿気がなく、風通しのいい場所
・直射日光に当たらない場所
・平坦で安定している場所
・幼児、ペットが触れられない場所

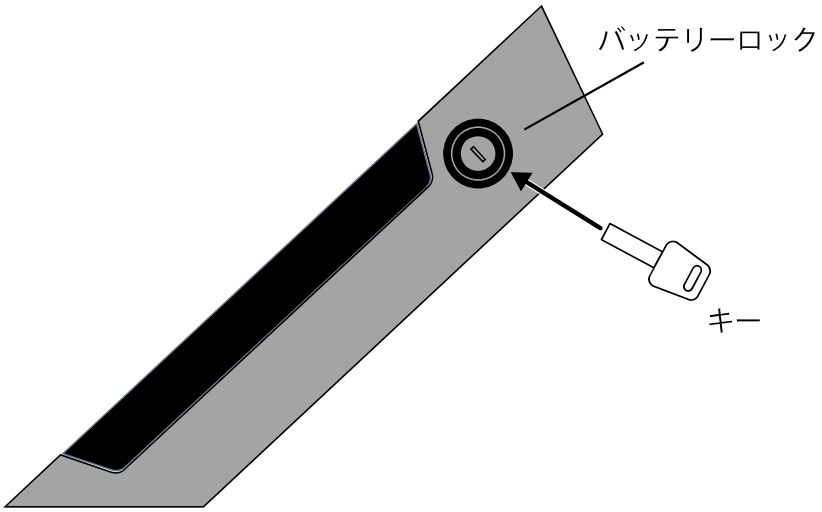
バッテリーを充電しましょう

バッテリーを車体から取外して充電する場合

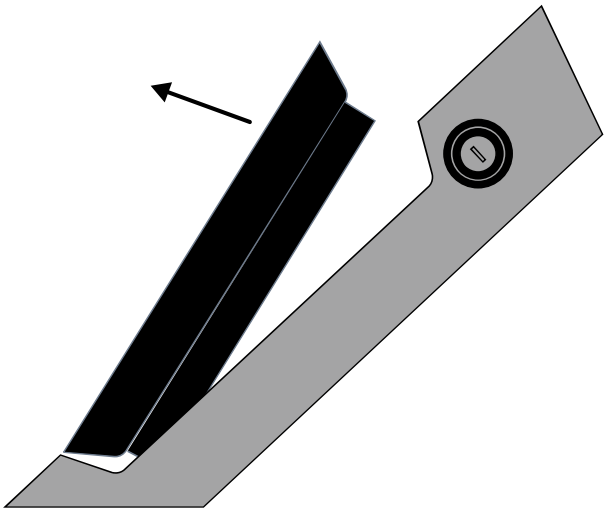
①電源スイッチ約3秒間長押しして電源を切ります



②キーをバッテリーロックに差し込み、時計方向に回してバッテリーロックを解除します

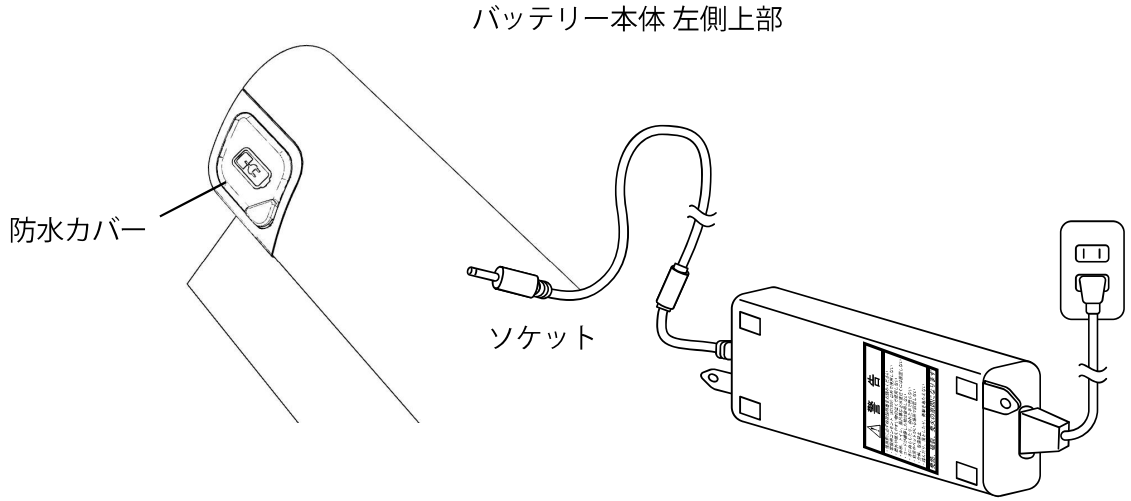


③本体を持って上側に引き出します。バッテリーを取り外したら、キーを取り外します。

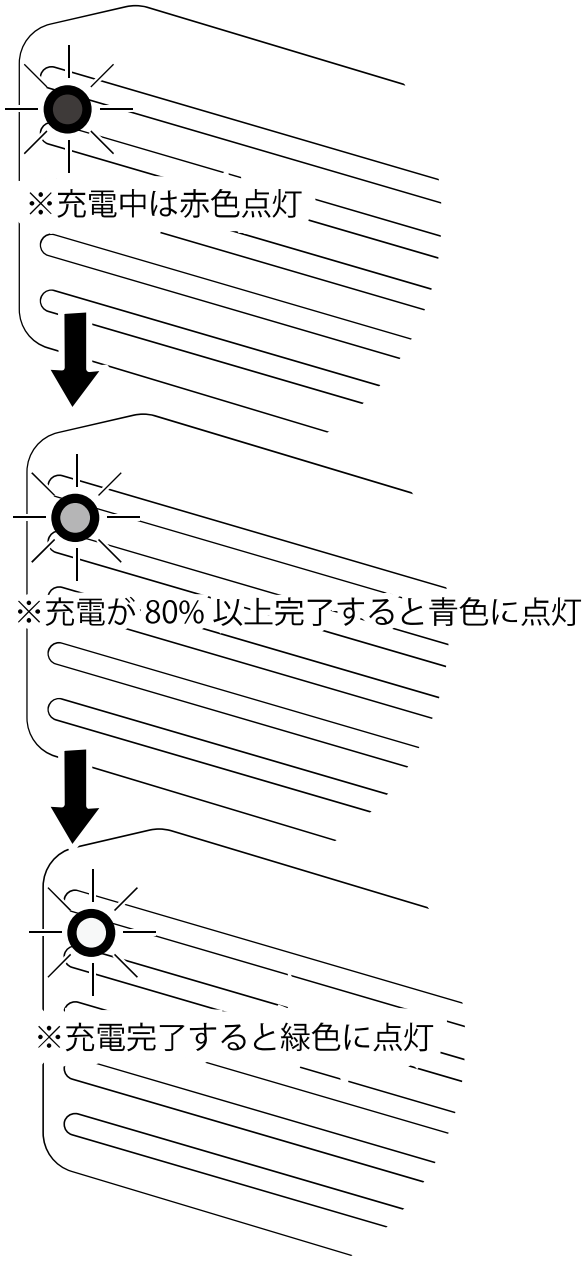


バッテリーを充電しましょう

④充電器の電源プラグを電源に接続してから、充電器のソケットをバッテリー裏面のソケット差込口の防水カバーをめくって確実に差し込みます。

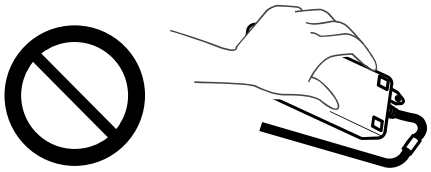


⑤充電が開始されると、充電器のライトが赤色に点灯します。



⚠ 注意

●充電中、充電器は特性上温度が高くなり、触るとやけどする恐れがあります。充電器は子供やペットの手の届かない場所に設置してください。



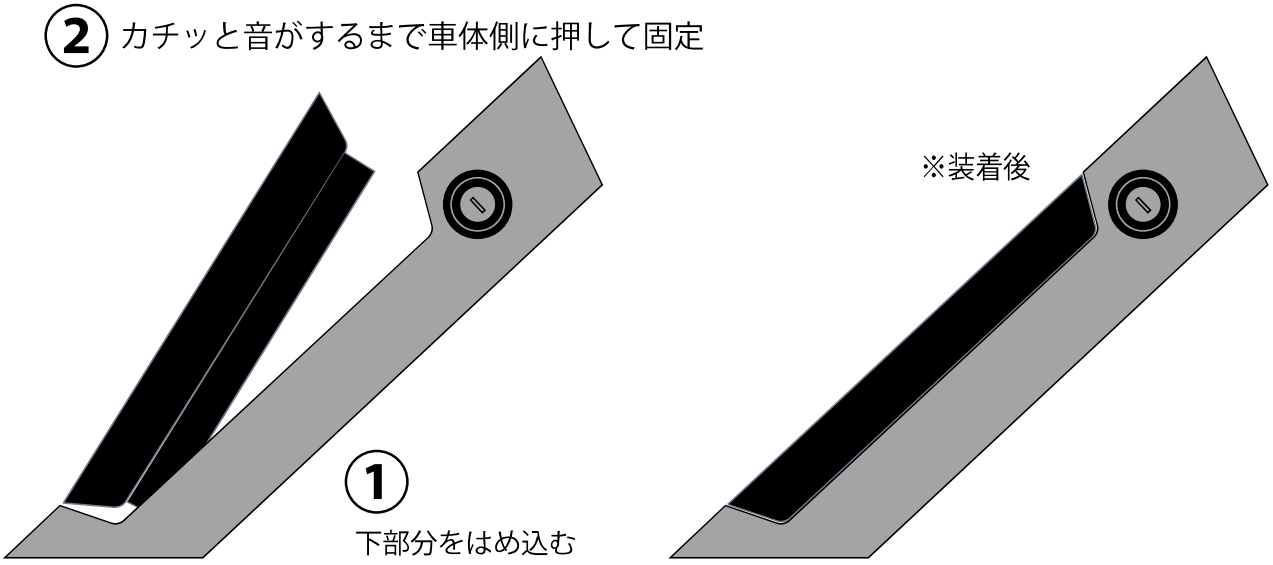
⚠ 危険

●充電中に異臭や異音、発煙など異常が確認された場合は、すぐに充電器の電源プラグを抜いてバッテリーを取り外して使用を中止し、販売店にお問い合わせください。

⑥充電が80%以上完了すると、充電器のライトは青色に転倒します。充電が100%完了すると、充電器のライトが緑色に点灯します。緑色のライトが点灯すると、充電器の充電動作は停止します。ソケットをバッテリーを持ちながら取り外し、充電器の電源プラグを電源から抜いてください。バッテリーの防水カバーをしっかりと取り付けてください。

バッテリーを充電しましょう

⑦バッテリーを本体に取り付けます
バッテリーの接続部などにごみなどが付着してないことを確認したうえで、バッテリーの下部分から本体に乗せてグリップ部分を本体側に押して、カチッと音がするまで押して固定します。
装着後、バッテリーを手前に引いて、確実にロックしている事を確認してください。



充電時間

バッテリー残量が10%以下の状態から充電した場合、満充電までの充電時間はおおよそ６時間です。

●充電時間はバッテリー内部の温度、充電場所の温度によって異なります。
●長期に放置したバッテリーを充電した場合、電池の状態により充電時間が延びる可能性があります。

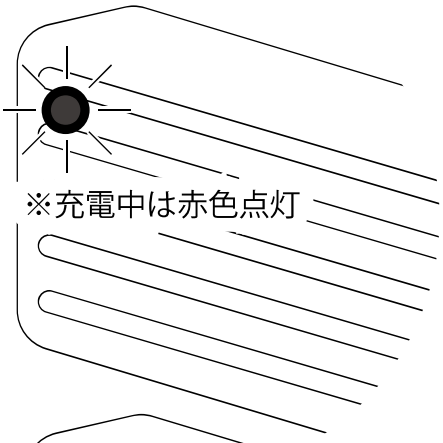
バッテリーを充電しましょう

バッテリーを車体に取り付けた状態での充電方法

①充電器の電源プラグを電源に接続してから、充電器のソケットをシートチューブ左側下部のソケット差込口の防水カバーをめくって確実に差し込みます。

※充電中は本体の電源を入れないでください。故障の原因となります。

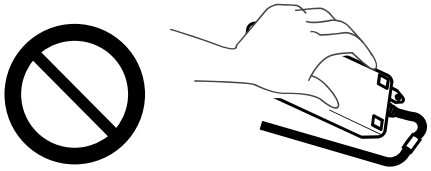
②充電が開始されると、充電器のライトが赤色に点灯します。

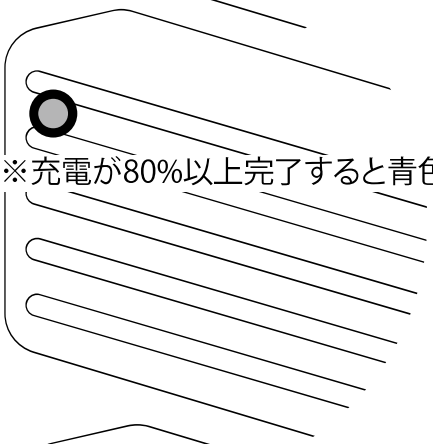


※充電中は赤色点灯

⚠ 注意

●充電中、充電器は特性上温度が高くなり、触るとやけどする恐れがあります。充電器は子供やペットの手の届かない場所に設置してください。

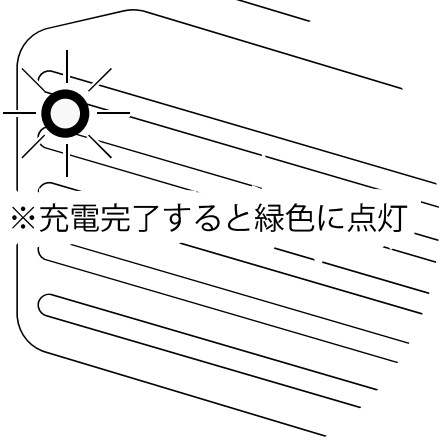




※充電が80%以上完了すると青色に点灯

●充電中に異臭や異音、発煙など異常が確認された場合は、すぐに充電器の電源プラグを抜いてバッテリーを取り外して使用を中止し、販売店にお問い合わせください。

③充電が80%以上完了すると、充電器のライトは青色に点灯します。充電が100%完了すると、充電器のライトが緑色に点灯します。緑色のライトが点灯すると、充電器の充電動作は停止します。ソケットを取り外し、充電器の電源プラグを電源から抜いてください。ソケット差込口の防水カバーをしっかりと取り付けてください。



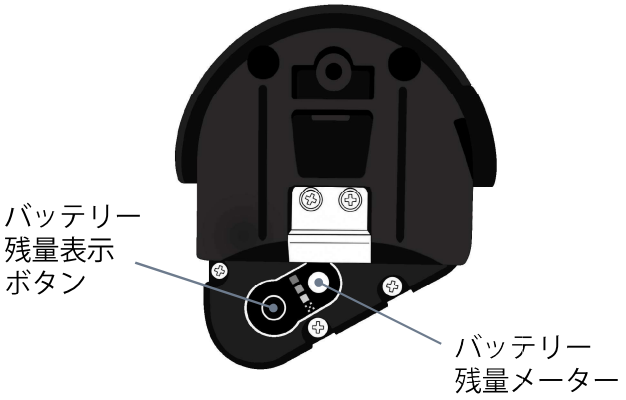
※充電完了すると緑色に点灯

バッテリーを充電しましょう

充電の確認

充電の状態を確認するには、バッテリー本体とメインスイッチのバッテリー残量表示で行います。

バッテリー本体



メインスイッチ



バッテリー本体の残量メーターの表示について

バッテリー本体の残量メーターは、LEDの色によりバッテリーの残量の目安を4段階で表示します。

●	ブルー　＝70～100%（約）
●	グリーン＝40～70%（約）
●	レッド　＝10～40%（約）
✳	レッド点滅（Flashing）＝10%以下（約）

⚠ 注意

●正常に充電を開始しても、充電途中でバッテリー内部が既定の温度を超えた場合、バッテリー保護のために自動的に充電を停止します。この場合、充分に充電されてない場合がありますので、充電がされてなかった場合、バッテリーをしばらく冷ましてから充電に適した環境で再度充電してください。

⚠ 注意

●充電中または使用中に環境の状況により、バッテリー保護の為に充電及び通電を停止させる機能が備わっています。バッテリーが作動しない、充電しないなどの症状がでた場合は、バッテリーを充電に適した環境でしばらく保管し、バッテリー本体のバッテリー残量表示ボタンを約3秒間長押ししてください。バッテリーの温度が適正になっていると、正常の状態に戻ります。

乗車前に

乗車する前の安全点検

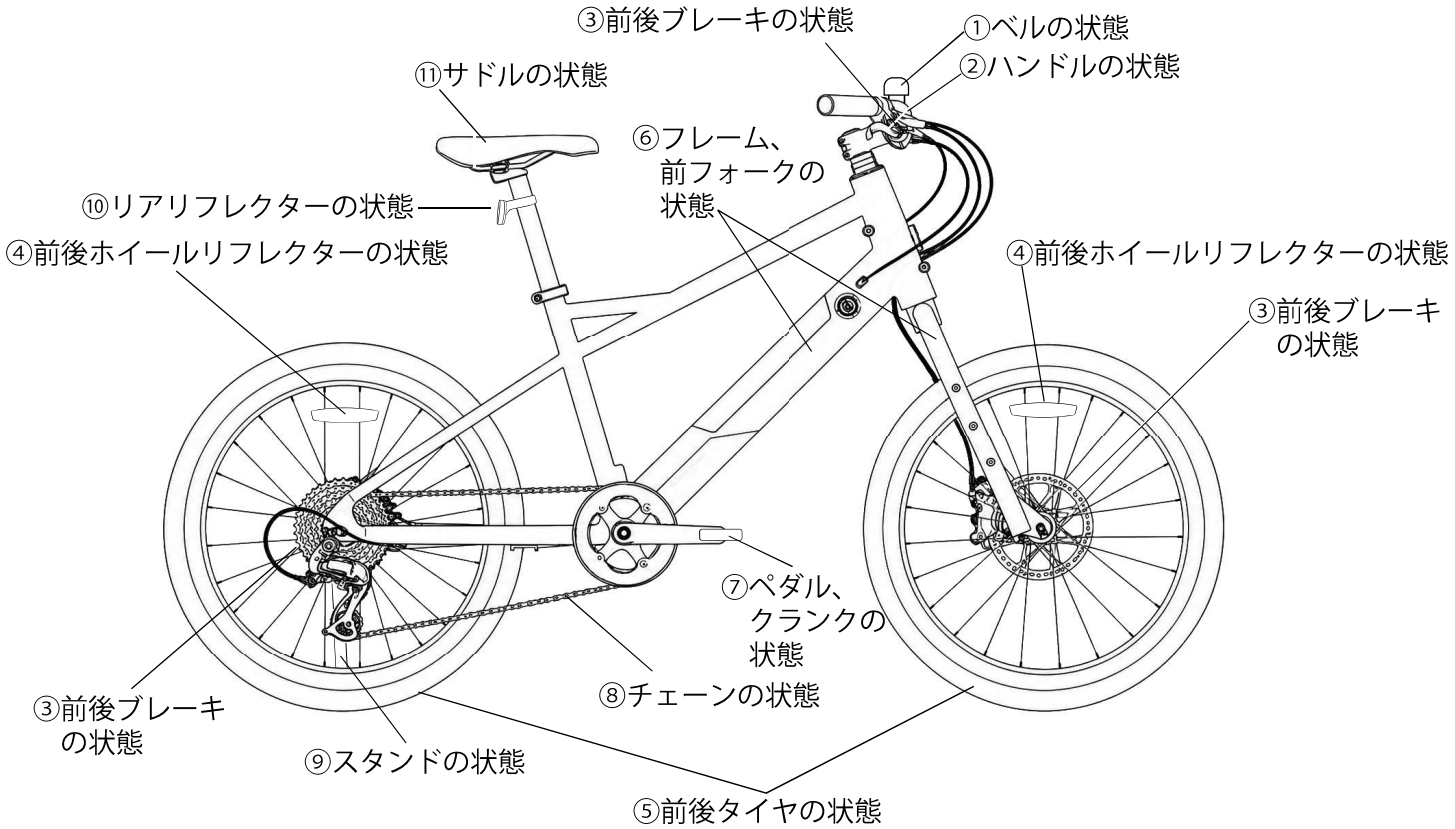
⚠ 警告

●安全に乗っていただくために、乗車前点検を必ず実施してください。
●異常が認められた場合は、すぐに販売店で点検、整備を受けてください。異常があるまま使用を続けると、転倒や衝突によるけがのおそれがあります。
●分からない事、難しいと感じたときは販売店にご相談ください。

⚠ 注意

●電動アシスト機能のモーター、センサー、バッテリー及びスイッチなどは精密部品で構成されておりますので分解、改造しないようにしてください。
●乗車前点検は、メインスイッチの電源を切っている状態で行ってください。バッテリーの残量、電動補助システム作動の点検は電源を入れて行ってください。

メインスイッチの電源を切っている状態での点検箇所



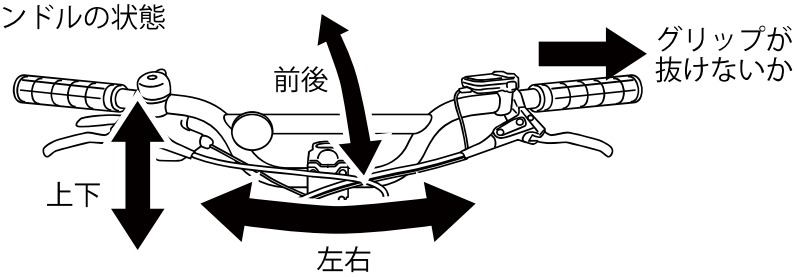
番号	点検項目	点検内容
①	ベルの状態	・ベルは鳴りますか。破損していませんか。
②	ハンドルの状態 ※点検の詳細	・がたつきはありませんか。 ・進行方向に向かって直角ですか。 ・グリップは抜けませんか。

乗車前に

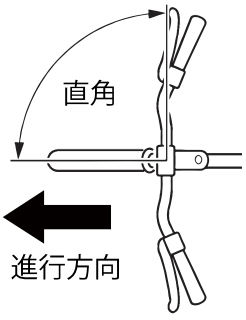
番号	点検項目	点検内容
③	前後ブレーキの状態 ※点検の詳細	・レバーとグリップの間で約１／２でブレーキは効きますか。 ・ブレーキレバーが動いたりずれたりしませんか。 ・ブレーキがかかりっぱなしになっていませんか。 ・ブレーキに汚れ、異物が着いたりはさまったりしていませんか。 ・ブレーキの効き具合は充分ですか。 ・ブレーキをかけたとき、異常な音が鳴りませんか。 ・ブレーキをかけたとき、ブレーキにゆるみやがたつきがありませんか。 ・ブレーキパットの残りは充分ですか。
④	前後ホイールリフレクターの状態	・汚れ、割れ、破損はありませんか。
⑤	前後タイヤの状態 ※点検の詳細	・空気圧は適正ですか。 ・摩耗していませんか ・異物やくぎなどがささっていませんか。
⑥	フレーム、前フォークの状態	・変形、亀裂、ふくれなどの異常がありませんか。※点検の詳細
⑦	ペダル、クランクの状態	・ゆるみやがたつきがありませんか。 ・回転はスムーズですか。 ・変形、ひび割れなどはありませんか。
⑧	チェーンの状態	・滑らかに動きますか。 ・小石などの異物がはさまっていませんか。 ・変形、折れなどはありませんか。
⑨	スタンドの状態	・作動と解除がスムーズにおこなえますか。 ・がたつき、破損などはありませんか。
⑩	リアリフレクターの状態	・汚れ、割れ、破損はありませんか。
⑪	サドルの状態 ※点検の詳細	・引き上げ限界線が見えていませんか。 ・シートピンにゆるみはありませんか。 ・サドルを動かして、ずれたり回転したりしませんか。 ・サドル上面はほぼ水平の場所で固定されていますか。 ・サドルの取り付けにゆるみ、がたつきがありませんか。

点検の詳細

②ハンドルの状態



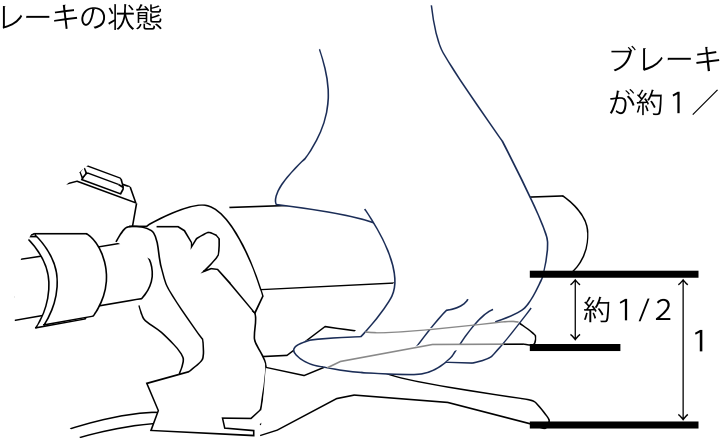
ハンドルを上下、左右、前後に動かして、ガタが無いか確認します。また、グリップを外側に動かして、簡単に抜けないかも確認します。



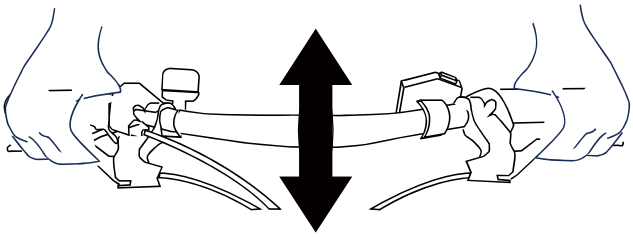
ハンドルが前輪に対して直角かどうかを確認します。

乗車前に

③前後ブレーキの状態



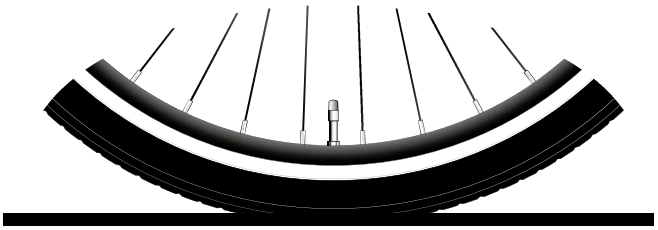
ブレーキレバーを握ったときに、レバーとグリップの距離が約１／２のときにブレーキが効いているか確認します。



ブレーキレバーを握った状態で自転車を前後に動かし、前後ブレーキがよく効くか点検します。
効きが弱いと感じたら販売店で点検、調整を受けてください。

---

⑤前後タイヤの状態

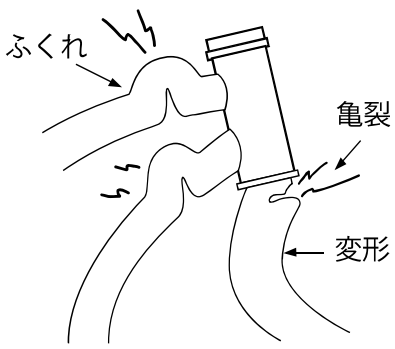


タイヤの適正空気圧は以下の表の通りです。適正な空気圧に調整して乗車してください。

空気圧：280kPa(2.86kgf/cm²,2.8bar) ～ 450kPa(4.59kgf/cm²,4.5bar)

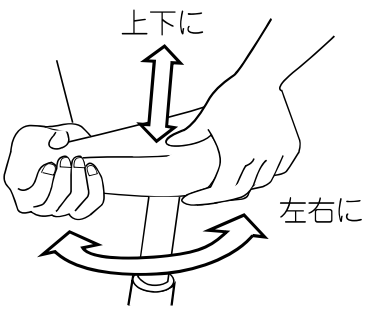
---

⑥フレーム、前フォークの状態



上記図のような症状がないか確認してください。

⑪サドルの状態



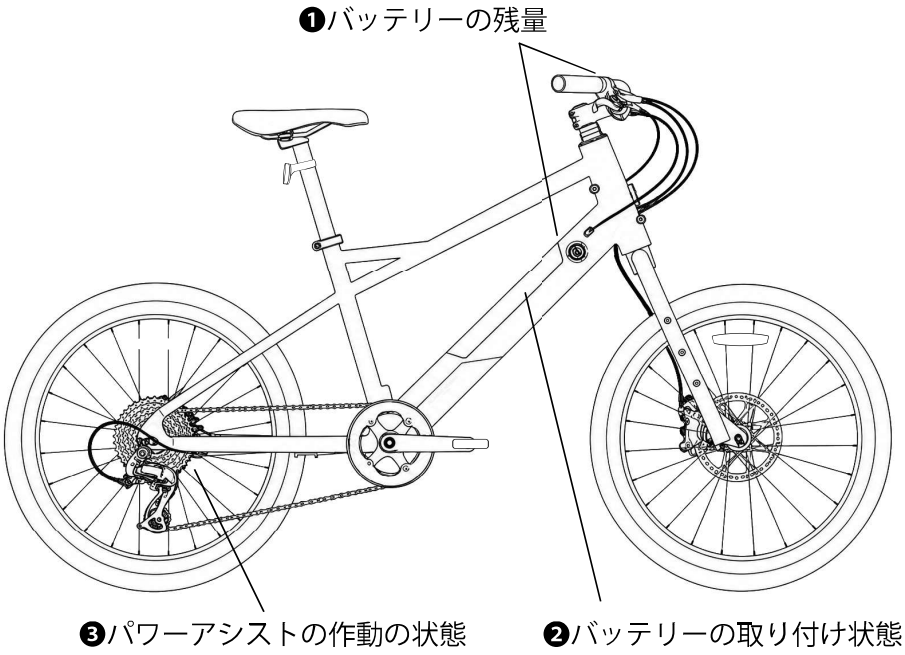
サドルを動かして、ずれたり回転したりしないか確認してください。



シートポストの引き上げ限界線が見えない高さである事を確認してください。

乗車前に

メインスイッチの電源を入れている状態での点検箇所

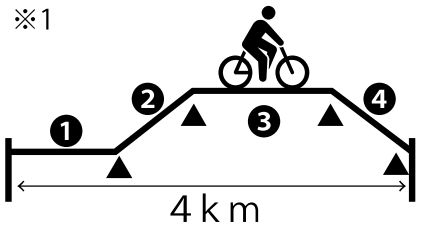


番号	点検項目	点検内容
❶	バッテリーの残量	・バッテリーの残量は充分にありますか。
❷	バッテリーの取付け状態	・確実に固定されていますか。
❸	パワーアシストの作動状態	・発進時にパワーアシスト機能が作動しますか。

乗車前に

満充電での走行できる距離の目安

１回の充電で走行できる距離の目安は以下の表のとおりになります。
走行できる距離は走行モードによって異なります。

走りかた	走行条件	走行距離の目安（km） 10　20　30　40　50
標準パターン ※1 	❶は平坦路1㎞ 変速『８』15㎞/h ❷は４度坂（勾配7.0%）1㎞ 変速『５』10㎞/h ❸は平坦路1㎞ 変速『８』15㎞/h ❹は４度坂（勾配7.0%）1㎞ 変速『８』20㎞/h ▲は10秒間の停止を表します。	BOOST（ブーストモード） 約22km NORMAL（ノーマルモード） 約37km ECO（エコモード） 約55km
４度登坂連続パターン ※2 	４度坂（勾配 7.0%）変速『5』 10km/h	BOOST（ブーストモード） 約7km NORMAL（ノーマルモード） 約10km ECO（エコモード） 約13km

※1　標準パターンとは
　　4度（勾配7.0%）の上り坂を変速『5』で、その他を変速『8』で連続走行した場合の自社計測数値です。

※2　4度登坂連続パターンとは
　　4度（勾配7.0%）の坂道を変速『5』で速度10km/hで連続走行した場合の自社計測数値です。

記載している、1満充電当たりの走行距離の測定条件は，以下のとおりです。
・バッテリーは新品状態
・車載重量（乗員と荷物の合計）は65 kg

走行距離が短くなる気候や環境

以下の状況で走行した場合、走行距離が短くなります。

・向かい風が強い
・気温が低い
・路面の状態が悪い
・急な坂道が多い
・発進、停止の回数が多い
・荷物を持つなどして重量が重たい
・前照灯を点灯させている
・バッテリーが劣化している
・整備不良の場合
・タイヤの空気圧が低下している
・ブレーキが効いたままになっている
・チェーン、ギアなどに異常がある

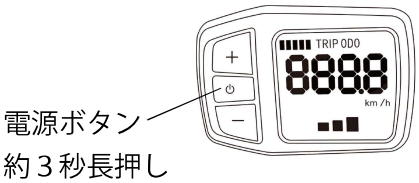
走行について

発進方法

1 スタンドをはねあげて、ハンドルがスムーズに動くことを確認してからサドルにまたがります。

2 ペダルに足を乗せずに、メインスイッチの電源ボタンを約3秒長押しし、電源を入れます。

3 ペダルをゆっくりと踏み込みます。



電源ボタン
約３秒長押し

⚠ 警告

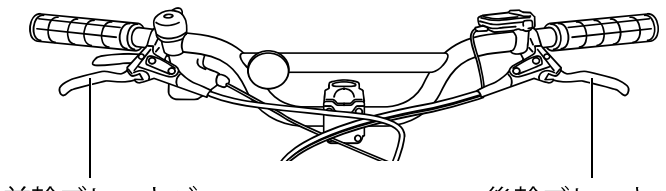
●けんけん乗り（片足をペダルに乗せながらこいで助走し、勢いをつけてサドルにまたがる乗りかた）はアシストシステム誤作動の原因となりますのでおやめください。転倒によるけがのおそれがあります。

●慣れるまでは自転車を乗り入れてもよい広場や公園など安全な場所でよく練習をし、パワーアシストの特徴に充分慣れてから一般道路でお乗りください。

※ペダルに足を乗せた状態で後ろにさがろうとすると、パワーアシストが作動して後ろにさがりにくくなります。後ろにさがる場合はペダルから足を降ろして数秒間待ってから後ろにさがってください。

ブレーキのかけかた

ブレーキをかけるときは、必ず前後ブレーキを併用してください。後輪ブレーキをかけてから前輪ブレーキをかけるのが正しい使用方法です。下り坂では、ブレーキを前後ともにかけて安全な速度で走行するようにしてください。とくに長い下り坂を前後どちらかのブレーキだけを使って走行すると、ブレーキが過熱して制動力が失われ、効かなくなるおそれがあります。



前輪ブレーキバー　　後輪ブレーキバー

⚠ 警告

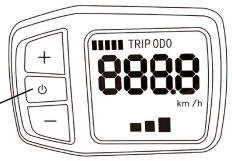
●片側だけのブレーキ操作はしないでください。スリップして転倒しけがをするおそれがあります。

●雨天などでブレーキ、タイヤがぬれているときは制動力が長くなります。ブレーキを前後ともにかけてゆとりのある速度、ブレーキ操作を心がけてください。

走行について

降車方法

1 前後ブレーキをかけて停車します。
2 安全に停止をしてから、ブレーキレバーを握ったままでゆっくりと降車してください。
3 スタンドを立てます。
4 電源ボタンを約3秒長押しして電源を切ります。



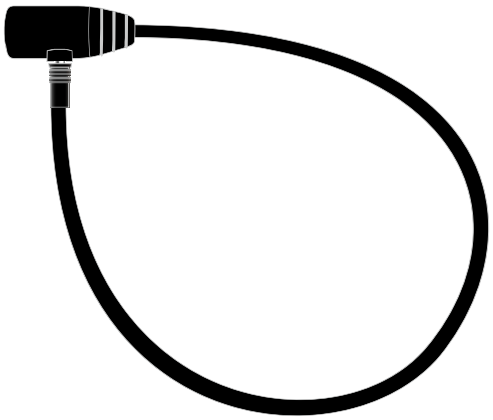
電源ボタン
約３秒長押し

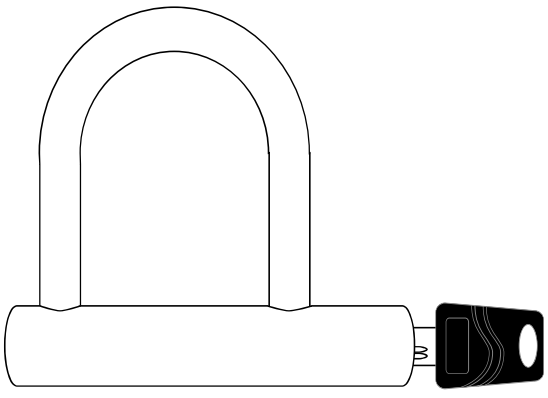
⚠ 警告

●走行直後のブレーキ部やモーターは高温になっている場合があるため、触らないようにしてください。
●駐輪するときは平坦な硬い路面に駐輪してください。
●スタンドに手や指をはさまないように注してください。
●駐輪後は安定して動かないことを確認してから離れるようにしてください。

お願い

盗難防止のために、ワイヤーロックなどで施錠してから離れるようにしてください。
※ワイヤーロックなどのカギは別売





定期点検について

初回2か月目点検を受けましょう

初回2か月目点検と定期点検の実施をお願いします

安全にお乗りいただくために、お買い上げいただいてから2か月目の初回点検と6か月ごとに定期点検を販売店で実施するようにしてください。
製造工場では充分に検査を実施してから出荷をしておりますが、ごくまれに使用条件により１～２か月の間にネジやボルトなどのゆるみが生じる場合もあります。
自転車販売店に保証書をお持ちいただき、お買い上げいただいてから2か月目に初回点検を受けてください。
点検は基本的に有料となりますが、ご使用状況により部品交換などが必要になる場合もあります。あらかじめ点検費用を販売店にご相談のうえ点検を実施してください。

定期点検の必要性

お買い求めいただいてから6か月目以降は半年を目安に定期点検を実施してください。
定期点検も自転車販売店に保証書をお持ちいただいて実施してください。定期点検も有料となります。消耗した部品や異常箇所をそのままにして使用を続けることは大変危険です。定期点検を実施してない場合、保証の適用を受けれないこともありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 警告

●定期的に自転車販売店で点検を受けてください。また、異常を感じた場合はすぐに点検を受けるようにしてください。
●ブレーキワイヤーは異常がなくても2年ごとに交換してください。ブレーキが効かなくなったり、スリップして転倒し、けがをするおそれがあります。

お手入れ、保管について

長くご使用いただくために

日頃のお手入れをしていただくことで、商品を長くご利用いただくことができます。また、お手入れをすることで異常個所があった場合見つけることもできますので、お客様の安全走行にもつながります。

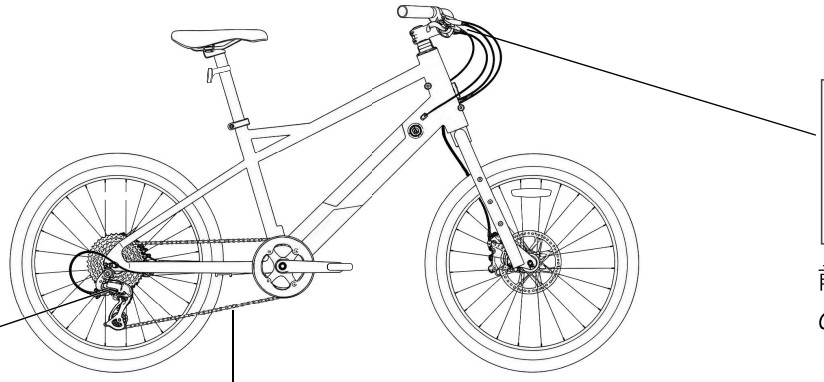
お手入れの方法

当商品は日常防水性を備えておりますが、勢いよくホースなどで水を直接かけたり、高圧洗浄機やスチーム洗浄機などを使って水をかけると、内部に水が入り、故障の原因となりますのでご注意ください。

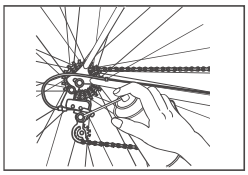
乾いた布やブラシで泥、土、ほこりを落としてください。

●雨などに水にぬれたときは、よく乾燥させてから下の図の箇所に注油してください。

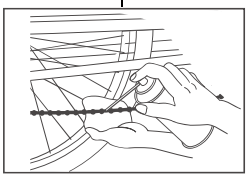
注油箇所



後ろ変速機のギア部分



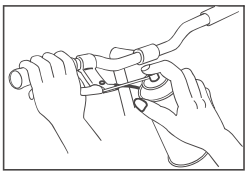
※自転車チェーン用油を注油



チェーン

（クランクを回しながら注油）

※自転車チェーン用油を注油



前後ブレーキレバー

のワイヤー可動部

※機械用油を注油

⚠注意

●必ず上記指定の油を使用してください。

●余分な油は乾いた布などでよくふき取ってください。注油する量が多すぎるとほこりを付着させ、故障の原因となることがあります。

●チェーンに注油したあとは余分な油は乾いた布などでふき取ってください。余分な油が残っていると、走行中に油飛びが発生し、靴や衣類を汚すおそれがあります。

⚠警告

●ブレーキの制動面やブレーキディスク、タイヤ、リムなどに防錆材やワックス、油などが付着しないようにしてください。ブレーキが効かなくなり、衝突、転倒、けがのおそれがあります。

●ガソリンや灯油、アルカリ性あるいは強酸性のクリーナーおよびその他の溶剤などを使用しないでください。ひび割れ、機器の破損の原因となります。

お手入れ、保管について

保管方法

保管に適した場所

以下に記載しているような保管に適した場所で保管してください。

・平坦で安定がよく、地面が硬いところ
・風通しがよく、湿気のないところ
・屋根があるなどの雨つゆや直射日光が当たらないところ

保管に適した場所

以下に記載しているような保管に適した場所で保管してください。

・平坦で安定がよく、地面が硬いところ
・風通しがよく、湿気のないところ
・屋根があるといった雨つゆや直射日光が当たらないところ
（屋外で保管する際はサイクルカバー（別売）をかけてください。

長期保管について

長期保管（１か月以上）する場合は

一か月以上の長期にわたり使用しないときは、バッテリーを取り外して、以下の要領で保管してください。

・バッテリーは屋内の涼しい場所（１５～２５℃）で湿気のない場所で保管してください。
・月に１度はバッテリーの残量を確認してください。残り１灯になったときはしばらく充電してバッテリー残量が著しく低下しないようにしてください。

⚠注意

●バッテリーは満充電または空の状態で放置すると劣化が早まります。バッテリーを長期保管する場合は、バッテリーの充電状態が満充電または空でないことを確認してください。定期的に残量を確認し、残量１灯になった場合、少しだけ充電するようにし、満充電まではしないようにすることがポイントです。

タイヤの空気圧について

タイヤはゴムの特性上、長期保管すると劣化が進みます。劣化を軽減するために空気を適正空気圧で維持するように心がけてください。

空気圧：280kPa(2.86kgf/cm²,2.8bar)
～
450kPa(4.59kgf/cm²,4.5bar)

長期保管後に再使用するとき

自己放電により、保管時も放電をし続けます。よってバッテリー残量は低下しておりますので、バッテリーを充電し直してからご使用ください。また、バッテリーの状況により充電時間が延びる場合があります。６か月以上にわたり保管して再利用する場合は、自転車販売店で点検、整備を実施してからご使用ください（有料）。

トラブルシューティング

故障かな？と思ったら

以下の表に従ってお調べいただき、改善しない場合は自転車販売店にご相談ください。

ペダルが重たい・アシストしない

症状および確認内容	対処方法
メインスイッチの電源は入っていますか？	電源を入れてください。
アシスト切モード（OFF)になっていませんか？	アシスト切モードはアシスト機能を停止しています。必要に応じて走行モードを切り替えてください。
バッテリーは確実に取り付けられていますか？	充電済みのバッテリーを確実に取り付けてください。
タイヤの空気圧は適正ですか？	空気圧が不足しているとペダルを踏む力が重たくなります。適正な空気圧まで空気を入れてください。
電源を入れてから停車したまま10分以上ペダルを踏んでいない状態が続いていますか？	自動電源OFFの機能が作動しています。再度電源を入れなおしてください。
気温の高い場所で使用していませんか？または長い坂道や重たい荷物を積載するなど走行負荷が高い乗りかたをしていませんか？	バッテリーまたはドライブユニットの温度が上がった場合、破損を防ぐための制御で異常ではありません。温度が下がるのを待ち、負荷の軽い状況でご使用を再開してください。また、変速は「８」に近くすれば負荷は軽減できます。
気温の低い場所で使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。バッテリーを１５～２５℃の屋内で保管しておいてから使用すると症状を軽減できます。
電源ボタンを押しても電源が入らない。	パワーアシストシステムの異常が考えられます。ご使用をやめて販売店で点検、整備を実施してください。

走行距離が短い

症状および確認内容	対処方法
充分に充電されていますか？	満充電になるまで充電してください。
気温が低いところで使用していませんか？	気温が暖かくなると回復します。バッテリーを１５～２５℃の屋内で保管しておいてから使用すると症状を軽減できます。
バッテリーが劣化していませんか？	バッテリーは劣化します。走行距離が短くなった場合はバッテリーの寿命が考えられます。新しいバッテリーに交換してください。（別売）

トラブルシューティング

充電できない

症状および確認内容	対処方法
電源プラグはしっかりと接続されていますか？	接続をもう一度やり直して充電してください。
充電器のライトは点灯していますか？	
バッテリーのライトは点灯していますか？	

充電器が熱い

症状および確認内容	対処方法
手で触れることができる温度	充電中は多少の熱を持ちますが、異常ではありません。
手で触れることができない温度、または充電器が熱で変形している	電源プラグを抜き、使用を中止して販売店にご相談ください。

異音、異臭、煙がでる

症状および確認内容	対処方法
ドライブユニット、バッテリーから普段とは異なる音が出たり、異臭、煙がでる	ご使用を中止してすぐにメインスイッチの電源を切り、販売店にご相談ください。
充電器から異音、異臭、煙がでる	電源プラグを抜き、使用を中止して販売店にご相談ください。

バッテリーがふくらむ

症状および確認内容	対処方法
バッテリーがふくらんで変形してきた	バッテリーの寿命です。ご使用を中止してすぐに販売店にご相談いただき、新しいバッテリーに交換してください。（有料）

電動自転車について知っておきたい事

リチウムイオンバッテリーの特性

・バッテリーは温度が上がるとアシスト力が低下します。これはシステム保護のための制御が作動している為で異常ではありません。バッテリーの温度が下がると回復します。
・バッテリーの温度が下がると、一充電あたりの走行距離が短くなり、アシスト力が低下しますが、リチウムイオンバッテリーの特性であり異常ではありません。
・バッテリーを１５～２５℃の室内で保管してからご使用いただくと、症状を軽減することができます。
・ご使用にならなくてもリチウムイオンバッテリーはわずかずつ放電しています。ご使用いただく前に充電していただくことで回復します。

バッテリーの寿命と交換

バッテリー容量は、充放電を繰り返し（約７００~９００回使用、充電を繰り返した場合）おこなうと、新品の状態とくらべて約半分まで低下します。また、長期保管しているときもわずかずつバッテリー容量は低下します。
バッテリー容量が低下すると一充電あたりの走行距離が短くなり、アシスト力が弱まります。充電をしても回復しないようでしたらバッテリーの交換時期です。出来るだけ早めにバッテリーを交換してください。（別売）

バッテリー交換時のお願い

リチウムイオンバッテリーは、資源の有効な利用の促進に関する法律（資源有効利用促進法）で、使用後の回収および再資源化が義務付けられています。交換したバッテリーの回収は、ご購入の販売店にご相談いただくか、各自治体のホームページをご確認ください。

保証について

当商品に材料上または製造上による不具合が生じた場合は、消耗品を除き、保証書に示す条件に従い、その部品の交換または補修により無料で修理をおこないます。
詳しくは保証書をご覧ください。

電動自転車について知っておきたい事

防犯登録について

●防犯登録は法律で義務付けられていますので、購入店またはお客様の最寄の防犯登録所（自転車販売店等）にて登録の手続きをおこなってくださいますよう、お願い致します。

① 防犯登録手続きは利用者と車両を、実店舗（防犯登録所）で確認しての登録が原則です。

② 防犯登録は地域別の登録となっています（防犯登録シールには登録地区名が刻印されて交付されます）。

お持込での防犯登録には下記の物が必要となります。

①自転車本体

②自転車保証書

③登録者本人確認証

（免許書・パスポート・健康保険証・住民票など）

④ご購入証明※

●ご購入証明に関しては、弊社製品の保証書にご販売店の押印がございましたら代用可能です。または購入時の領収書（支払いを証明できるもの）をご持参ください。

●盗難にあった場合に捜す手掛かりになりますので、車体番号を本書に記入しておいてください。

自転車保険に加入しましょう

自転車保険の加入を義務づける自治体が増えています。万一の事故に備えて自転車用対人、対物賠償保険にご加入ください。詳しくは保険会社及び販売店にご相談ください。

車両情報の保管

●車体番号

車体番号は防犯登録などに使用します。フレームに刻印されている番号を書き写しておいてください。

廃棄する場合

廃棄する場合は、お住まいになっている地域のルールに従ってください。ルールの確認は各自治体のホームページなどを参照してください。また、リチウムイオンバッテリーは資源有効利用促進法に基づきリサイクルが義務付けられています。リチウムイオンバッテリーを廃棄するときは、各自治体のホームページなどを確認し、リサイクル協力店等にお持ちください。

製品仕様

機種名		CROSS SECTION e-EDITmini
全長		１，６１０mm
全幅		７１０mm
軸間距離		１，１００mm
サドル高		７４０～９５０mm
適正身長		１４５ｃm以上
車両重量		１８．９ｋｇ
タイヤ	サイズ	２０ｘ２．３５　WO
	空気圧 （前後）	280kPa(2.86kgf/cm²,2.8bar) ～ 450kPa(4.59kgf/cm²,4.5bar)
リム形状		WO
バルブ方式		仏式バルブ
変速機方式		外装８段変速
駆動方式		チェーン式
制動装置	前	機械式ディスクブレーキ
	後	機械式ディスクブレーキ
充電あたりの走行できる距離		２２ｋｍ(標準パターン　ブーストモードでの自社計測値)
補助速度範囲 (変速位置①)	比例補助	０～１０ｋｍ/ｈ未満
	逓減補助	１０～２４ｋｍ/ｈ未満
モーター	形式	ブラシレスＤＣ式
	定格出力	２５０Ｗ
補助力制御方式		踏力比例制御方式
バッテリー	品番・種類	XS６９-９９２０
	定格電圧	３６Ｖ
	定格容量	７Ａｈ
充電器	品番	XS６９-９９２１
	電源	ＡＣ１００Ｖ
	充電時間	約６時間（０～満充電までの目安）

メモ

●バッテリー購入時の型番

型番：XS６９‐９９２０

36V x 7Ah

車両情報の保管

●車体番号

●車種コード番号 e-EDITmini（イーエディットミニ）

●防犯登録番号

●自転車保険番号

株式会社 ダートフリーク DIRTFREAK Co.

〒489‐0005 愛知県瀬戸市中水野町2‐30 2-30 NAKAMIZUNO SETO AICHI 489-0005 JAPAN